**包括的な学校改善の視点：教育課程・学習指導、安心して学べる環境**

# ４小学校１分校から１つの中学校へ小中連携を進める学校モデル

| | | | |
|---|---|---|---|
| 中核校 | 倶知安町立倶知安中学校 | 指定校 | 倶知安町立倶知安小学校<br>倶知安町立北陽小学校 |

## ■　構築した学校モデルの具体

### ○　主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

・小・中学校で共通して問題解決的な学習の流れを基盤とした授業展開を進めることで、児童生徒が見通しをもって、主体的な学習ができるよう取り組む。

・授業参観一覧表や学習指導案にＩＣＴ活用ポイントを明記することで、授業者のＩＣＴを使う意図や効果を明確にし、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を促進する。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 4年1組 | | 外国語 | English room | 「Let' s ploy cards.」 |
| ICTポイント | ペアの友達の指示した『天気』に合う服装をタブレット上で選択した活動。様々な服装を視覚的に確認できるための活用。 | | | |
| 4年2組 | | 国語 | 教室 | 「花を見つける」 |
| ICTポイント | 教科書を張り付けておき、キーワードに線を引く活動をグループで行う。ジャムボード上で作業することで、協働的な作業を目指す。 | | | |
| 5年1組<br>5年2組 | | 社会 | 教室 | 「自然条件と人々のくらし」 |
| ICTポイント | 友達と一緒にタブレット上で共有しながら作業が進められるために活用。単元末に互いにできた物を交流する。 | | | |

【ＩＣＴ活用ポイントの明記】

### ○　合同研修会・実践交流会を生かした学校間の連携・接続

・町内の全教員を対象とした年に２回の合同研修会の他、町内の教頭、主幹教諭、教務主任を対象とした７回の教育課程実践交流会を実施し、成果や課題を共有しながら連携の強化を図る。

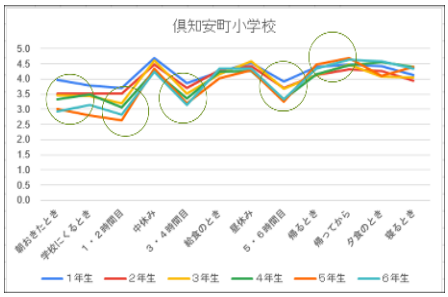
・町内学年間部会を中心とした４小学校１分校と中学校の教職員が連携し、つながることで心理的安全性の確保を図る。

【学年間部会の取組】

### ○　ウェルビーイングな学校づくり

・児童生徒が毎日行きたい学校づくりを目指すため、「『幸せ度』アンケート」を実施し、どのような時間帯や場面で児童生徒の不安感が高まるのかを把握し、児童生徒の声かけに生かす。

・全教職員が互いの意見を尊重し合うことのできる人間関係となるよう、職員室でのコミュニケーションの充実を図り、温かい職場を構築する。




【「幸せ度」アンケートの実施】

## ■　学校モデルの構築に向けた取組の具体

〔管理職の取組〕

・「倶知安プラン」の取組の進捗について、校長の助言の下、教頭、主幹教諭、教務主任が、教育課程実践交流会で状況を確認し、小・中学校間で共有を図った。また、この取組を校長室だよりや教育課程実践交流会だよりで教職員へ全体共有した。

・今年度より行っている学年間部会や事務職員の取組を推進し、４小学校１分校から１つの中学校へのスムーズな接続や、自校の改善、教職員間のつながりを深めることを促進した。

〔専科教員及び事務職員の取組〕

・専科教員については、「Chromebook 活用表」に基づき、積極的なＩＣＴの活用を促進することで、町内全ての小学生が中学校入学時に必要なスキルを習得できることを目指した。

・事務職員については、事務職員ブロック部会を組織し、研修を定期的に行うとともに、町内で共通した予算要望や学校備品の共有、新採用事務職員への助言、町内の各学校の視察や情報交流、小樽市への視察などを行った。

## ■　各指定校への学校モデルの普及方策

・地域協議会において、効果的な取組事例を共有し、指定校において実践した結果について再度、地域協議会で交流した。

・町内の合同研修会、教育課程実践交流会において、構築した学校モデルについて説明を行い、共有を図った。